

がっこうだより



令和3年1月29日(金)
紀美野町立下神野小学校
☎ 073-495-2019

友達

昨年のニュースですが、アメリカの俳優トム・ハンクスさんと、コロナという名前のせいで学校でいじめられたオーストラリアの少年との手紙のやりとりが話題になりました。昨年の3月に伝記映画制作のためにオーストラリア滞在中、ハンクスさんは新型コロナウイルスに感染しました。その際、コロナ・デ・フリースくん(当時8歳)からお見舞いの手紙を受け取りました。その中で、自分の名前は大好きだが、学校でコロナウイルスと呼ばれ、「そう呼ばれるたびにとても悲しくなり、怒っています」と綴っていました。

ハンクスさんは返信で、「大好きな友達のコロナへ」と書き、「きみの手紙で僕と妻は素晴らしい気持ちになった！素敵な友達になってくれてありがとう。気分が落ち込んでいる時に励ましてくれるのが友達だ」と綴りました。また、「きみは僕の知り合いの中で唯一、コロナという名前を持っている。指輪、太陽、そして王冠という意味だ」と励まし、手紙と共に、療養中に使っていたコロナ社製のタイプライターをコロナ君に贈ったそうです。

自分の名前がいじめられたコロナ君に対して、その名前の意味を語り、タイプライターまで贈呈したハンクスさんは素晴らしいと思います。しかし、私はそのことよりも、「素敵な友達になってくれてありがとう。気分が落ち込んでいるときに励ましてくれるのが友達だ」という言葉にとっても感銘を受けました。

長く同じ学校に通い、同じ教室にいても、相手の悲しみが分からない子は、本当に友達でしょうか。互いに面識がなく、お見舞いの手紙1通のやり取りしかなければ友達とは呼べないのでしょうか。改めて、「友達」について深く考えさせられるニュースでした。付き合いの近さや長さではなく、相手を思いやる事が出来てこそ本当に「友達」なのだ。

今現在も、世界中が新型コロナウイルス感染症で苦しめられています。誰もが、肉体的・心理的・経済的・社会的につらい思いをしているのが現状です。下神野小学校の子どもたちも程度の違いはあれ、つらさ・苦しさ等を感じているのではないのでしょうか。今こそ、「気分が落ち込んでいるときに励ましてくれるのが友達だ」という意識を子どもたちにも持ってほしいと切に願います。そして子どもたちだけでなく、大人も互いに支え合っていきたいものです。先生方と子どもたち、そして保護者や地域の皆様、まだまだ、大変な時期が続きますが、ともに乗り越えていきましょう。

学校長 北川 勝則

産休代替教員着任のお知らせ

2学期末で産休に入りました、2年生担任 吉本尚美教諭の代替教員が1月下旬に着任いたしました。

高石 光里 (たかいし みさと) です。

どうぞよろしくお祈りいたします。

子育てのヒントとなる読書案内 『最新現場報告 子育ての発達心理学 育つ育てられる親と子』清野博子：著 講談社+α新書 読売新聞大阪本社編集委員

学び方を学ぶには、幼児期にゆったりとした時間を過ごす必要がある。
清水さん(大阪教育大学名誉教授清水美智子)は、1957年、心理学の研究論文を書くために、絵単語カードを使って、4歳から9歳までの子どもの概念化の発達過程を調べた。人間、動物、乗り物、はきもの、食べ物、家具に分類できる20枚のカードを見せて、同じ仲間同士に分類させ、その理由を聞く。

女の子、鏡台、赤ん坊、電車の4枚を選んで、「お母さんがお化粧をして、赤ちゃんを連れてお出かけしたら、電車に乗るの」と説明する子もいれば、猿とバナナのカードを選んで、「動物園に行ったら、猿がバナナを食べていた」という子もいる。こうした自分の個人的なイメージで関係づけられる段階から、一般的な概念化ができるようになるのは、6歳から8歳のあいだだった。

それから20年後の1982年、国立国語研究所が同じ調査を追試したところ、子どもの概念化は清水さんの調査時より1年以上早くなっていた。幼児番組、絵本の増加、幼児教育の普及などによる発達の加速現象かもしれないと分析された。

それが喜ばしいことであるかどうか、清水さんは疑問を感じる。たしかに外から強い刺激を与えれば、子どもは知識を覚える。何かができるようになる。しかし、そんなに急いで幼児期を駆け抜けるのは危ない。

発達は二つの側面を統合して達成される。一つは、外の世界の秩序、行動の型を学び、適応していく過程。もう一つは、経験をいったん自分の中に取り入れて発酵させ、自分だけの内なる世界を形成していく過程。

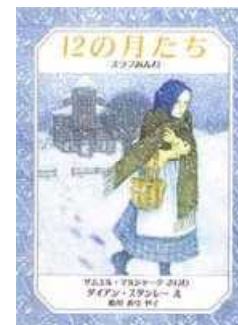
過剰な刺激にさらされ、せかされて、見せかけの適応をしても、内なる世界がしっかり育っていないと、自我を確立すべき思春期に、自分が何者かわからなくて、破綻してしまう。幼いときの時間をゆっくり使って、自分の内なる世界をしっかり築いておく必要があるのだ。

子どもにすすめたい本 親子で読みたい本 『12の月たち』：スラブ民話 サムエル・マルシャーク：再話 ダイアン・スタンレー：絵 松川真弓：訳 評論社

いじわるな継母と姉に言いつけられて、1月の猛吹雪の中をマツユキソウを探しに女の子が森に出かけます。マツユキソウは3月にならないければ咲かない花です。その森の中で女の子は12人の男の人がたき火にあたっているところに出くわします。女の子が森に来た理由を話す男の人たちは・・・

美しい挿絵とともに、厳しい冬の様子、温かい春の様子が描かれている絵本です。昔話に典型的なストーリーが展開され、最後は「めでたしめでたし」で終わり、安心して聞くことのできるお話でもあります。

寒い冬の夜に、暖かな部屋の中できれいな絵本の読み聞かせを親子でやってみませんか。



行事予定

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| 1日(月) 交通安全街頭指導 集団登校 | 17日(水) クラブ活動 |
| 3日(水) 委員会活動 | 19日(金) 育友会新役員会 |
| 4日(木) 中学校入学説明会(6年) | 21日(日) 市町村対抗ジュニア駅伝 |
| 9日(火) スクールカウンセラー来校 | 22日(月) 授業参観・学級懇談会 |
| 11日(火) 建国記念の日 ● | スクールカウンセラー来校 |
| 13日(土) 冬の美術展(海南 nobinos) | 23日(火) 天皇誕生日 ● |
| 14日(日) 冬の美術展(海南 nobinos) | P T A 人権研修会 |
| 15日(月) 集団登校 | 予定は変更になる場合があります。 |
| 17日(水) 3年社会見学(歴史民俗資料館) | |